

○小学生バレーボール大会における競技取り扱いについての共通理解

1. 他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認について

資料「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」

資料「他の都道府県在住の新年度移籍登録選手一覧表」

2. ユニフォームについて

・ユニフォーム規程

選手番号についてはルールブック・競技要項の両方に記載されている。

都道府県名の大きさと位置 チームネームより小さい（高さ） 袖か襟下

・混合の男女判別

ソックスの色や長さ → ソックスの色（長さだけでは判別しにくい）

ハチマキ → ×（ゲーム中にとれたり、はずしたりすることがある）

※審判委員は一目で判別できることが大前提

・ウェア等公認制度について

・ベンチスタッフの服装

シャツのイン・アウトについてはノーコントロール

3. ベンチへの持ち込み物について

①飲料水の水筒 → ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式の
ボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば
問題ない。ベンチスタッフも同様

②キャンプカート → 安全面、屋外の汚れを入れない観点から使用禁止

③スマートウォッチ → 時計としての使用は認める。（通信機器やカメラとしての使用禁止）

4. テクニカルタイムアウトについて

選手の健康管理を考慮し、以下の通りに適用する。

① テクニカルタイムアウトを2回適用する場合の取り扱い

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

② 通常のテクニカルタイムアウト1回でデュースが続く場合の取り扱い

第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は上記と同様とする。

5. 試合前後のあいさつについて→コロナ禍前に戻す

選手 ネットをはさんで握手

監督 試合後は審判員と握手

6. 試合間のチームの入れ替えについて

資料「審判委員とコート委員の連携と役割分担」

7. 試合中の応援団のマナー違反への対応

①フラッシュ撮影や応援方法に問題があった場合

コート委員が応援団に指導し止める。競技責任者に報告する。

②判定に対するクレームや相手チームへの暴言・威嚇等があった場合

どちらのチームの応援なのか、コート委員が監督に確認する。コート委員は本部に連絡する。レフェリーが気づいた場合は、セカンドレフェリーが監督に確認し、コート委員に伝える。

8. 試合中、選手が怪我をした場合の対応

審判員はゲームを止める。セカンドレフェリーは選手の状態を確認し、監督に報告する。判断は監督に委ねる。監督の対応によっては、コート委員は救護員を呼ぶ。その時に、救護員に選手の状態を伝える。怪我の処置はベンチ後方など、危なくない場所で行う。審判は試合を再開させる。

9. 試合中、災害が発生した場合の対応

ゲームを中断し、子どもたちの命を守る行動を最優先する

大会実行委員会が作成する大会危機管理マニュアル（大会役員用）に則り対応する

※セカンドレフェリーは、中断時刻をスコアシートに記入しておく。

10. 2024年6人制ルールの取り扱い

タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

上記については、小学生も同じ取り扱いとする。これは正規の試合中断（作戦上）のタイムアウトの取り扱いである。テクニカルタイムアウトについては選手の健康と安全に配慮したタイムアウトであることから、選手は30秒間コート外に出て、給水又は休息する。モップかけは、選手（子ども）は行わない。